

いに連携して様々な活動を行っており、農林水産省とJミルクが発起人となり、全改協も参加しています。

また全改協としては、「飲んで！勧めて！日本の酪農家応援プロジェクト」という事業を本年度以降継続実施します。全改協は昨年3月に「日本の酪農乳業応援宣言」を発表しました。

配といふシステムの良さ、便
利さを広く知つていただくな
どで、まだ牛乳宅配を利用し
ていなない方々に向けてメリッ
トを知つてもらひ利用者にな
なつていただくとともに、す
でに利用しておられるお客さまか
らはメリットを周囲に宣伝し
ていただき、全改協の加盟店
店から改めて宅配利用者を増

・宅配を利用する（増本で消費量を増やすことによって酪農家を応援する）「あなたの一杯で酪農を元気に!!」→「既存向け」

- ・宅配未利用の方に、宅配牛乳システムのメリット、便利さを伝えて契約につなげる「家族の健康習慣 宅配ならで

この活動は今年度のみで終了するものではなく、来年度以降も継続して実施する必要と意義があります。既存のお客さまには応援団になつていただき、また、健康に関心を持つ新しいお客様に対しても、このリーフレットを活用してご案内していただくようお願いいたします。

らには個人に至るまでが、気負わず単純に「牛乳乳製品が好きだ」という理由で参加ができるゆるい集まりです。もつと牛乳乳製品の消費量を増やそう、という考えのもと、それぞれが互

につなげよう、という趣旨の宣言です。そしてこの宣言を具体化するため実施するのが「宅配チャネルでの需要拡大施策」です。これは、私たちの大きな財産である、牛乳の宅

すでに加盟店さまには、この活動のツールであるA3サイズ2つ折りのリーフレットが届いていると思います。

要因が絡み合っています。こうした状況のなか、令和4年に「牛乳でスマイルプロジェクト」が始まりました。このプロジェクトは、酪農・乳業関係者だけでなく、企業、団体、自治体、さ

牛乳乳製品の定期宅配による
安定した消費の拡大によって、
生乳を生産する酪農家の支援
やしていこう、という2つの
方法で消費拡大を図る、Jミ
ルクと連携して実施する事業

牛乳乳製品の需要創出、消費拡大は酪農乳業界の大きな課題です。

現在に至るまでの消費量の減少は、消費者の購入量の減少、食生活や国民の健康への意識の変化、そして酪農をとりまく労働環境や諸経費の高騰、さらには事実ではない情報（いわゆる牛乳悪者論）など、さまざまなもの

日本の酪農乳業応援宣言

乳業の持続的成長に向けて、J ミルクが 2018 年から持続可能な産業を目指すための戦略ビジョンとして提示し、その行動計画に基づいて酪農・生産者団体と乳業団体が取組っています。この取り組みに私たち牛乳販売店の団体は、ミルクサプライチェーンの一員の酪農乳業と牛乳乳製品の価値を高め、共通する課題の解決に向けた取組への貢献をしています。

代までは牛乳の流通の中心は牛乳販売店が担っていましたが、その後の流通市場の変化の主流はスーパー・マーケット、コンビニエンスストア、ドラッグストアなど多くの

化をしてきました。

にあっても全国におよそ 4000 店の牛乳販売店が存在し、宅配を介して約 300 万軒、お客様の支持をいただいています。このことは、牛乳乳製品を 1 軒 1 軒のご家庭に製品を届けた管理のものとお届けするという宅配の仕組みと、お届けした製品を毎日食するされる健康への期待感によるものと考えています。

はそれぞれの地域において地域密着のもと、牛乳乳製品の価値と商品の特徴を詳しく「健康アドバイザー」として直接消費者のご家庭を訪問、あるいは健康相談会の開催を通じて牛乳の飲用をお勧めしています。

、私たち全改協は、現在の生乳生産現場の現状を鑑み、酪農家の窮状改善のための官民連携を支援し、日本の酪農の有効と国産牛乳の消費拡大に寄与するため、消費者と直接接することができる牛乳販売店の特性をいかんなく活かし、全国の加盟店が一丸となって宅配サービスや乳製品の消費拡大に取り組み、日本の酪農乳業の発展に寄与することを宣言します。

2025 年 3 月

一般社団法人全国牛乳流通改善協会

令和7年度需要創出事業

る!! はじめての宅配ガイド
↓「新規向け」
となっています。

2025年3月
国牛乳流通改善協会





ブースの様子



ブースの様子



説明パネルの展示



宅配用冷蔵車

昨年11月15日（土）、東京都江東区豊洲の豊洲ふ頭内公園の一角で「牛乳でスマイルプロジェクト」「ミルクフェス in 豊洲」が開催されました。

本イベントは「牛乳でスマイルプロジェクト（*）」によるもので、生産者、乳业メーカー、食品メーカーやそのほか団体など20近くのブースが開設され、本物の牛も来場者を迎えるなか、全改協も主

催団体全8団体のひとつとして出展しました。

全改協は「宅配牛乳ステーション」として、宅配のシステム、メリットを理解していただき各加盟店の契約に結びつけたいとして、牛乳乳製品宅配システムのしくみ、メリット、牛乳乳製品の健康情報などを説明するパネルの展示・牛乳乳製品宅配で使われる保冷受け箱、保冷剤、シッパーなど

次元コードを読み取ると、取つてみたメークーを選んで、お申し込み先の住所を記入し、本事業

の事務局にそのデータを送るようになつており、折り返しお客さまにコンタクトをとり契約に結びつける、というものです。

当日はファミリー層を中心とした29,640名の入場者をカウントし、これから生乳生産量が増える一方、冬休みで給食の需要がなくなる、また寒い気候上の理由から消費量が減るという「不需要期」に向けて、酪農、牛乳乳製品に対する理解の醸成

（＊「牛乳でスマイルプロジェクト」：農林水産省とJミルクが立ち上げた取り組み。酪農関係者、乳业関係者に限らず、広く様々な企業や団体、個人に至るまで、「牛乳・乳製品が好き」「牛乳・乳製品をもっと広めたい」「牛乳・乳製品の消費を拡大したい」という色々な活動を通じて、消費者の理解、消費拡大、安定供給につなげたいというプロジェクトです。）

イベント開催 全改協も参加 「ミルクフェス in 豊洲」開催！



- ・牛乳乳製品宅配用の冷蔵車の実車の展示
- ・各メーカーからご提供いただいた宅配専用牛乳乳製品の無料配布
- ・実物の展示

に加え、2面の記事でご紹介しました、宅配チャネルでの需要拡大施策用ツールのリーフレット「家族の健康習慣 宅配ならできる!! 初めての宅配ガイド」のミルクフェス配布用特別バージョンを来場者に配布しました。この特別バージョンは、お渡しする来場者のお住まいが様々な地域であることを考慮し、リーフレットに印刷された二

次元コードを読み取ると、取つてみたメークーを選んで、お申し込み先の住所を記入し、本事業



宅配時ユニフォームの展示



保冷受け箱の展示

を行いました。ブースを訪れた人々からは、「近所に牛乳屋さんがなかつたので情報に接してうれしい」「実家では牛乳を取つてまる」「あるいは「牛乳配達つてまる」など、感想

が聞かれました。

全改協としても、リーフレットにより宅配利用のメリットが見直され、契約が少しでも増えるという成果が出ることを期待しています。

季節によつて生じる生乳の需給ギャップ、脱脂粉乳の過剰在庫、生乳の廃棄危機を縮小することが酪農乳業の大きな課題の一つであることは皆さまもご承知と思います。この、誰でも参加できる「牛乳でスマイルプロジェクト」が、その解決の一助になるよう広く参加が呼びかけられており、全改協も参加しています。従いまして、全改協の加盟店の皆さまも、自動的にプロジェクトの一員となつてています。

お店のチラシ、従業員の方の名刺、請求書などにロゴマークを使用したうえで、一層の消費拡大にご協力ください。

ロゴマークデータをダウンロードして使用するにはJミルクがガイドラインを定めており、皆さまは自動的に

「牛乳でスマイルプロジェクト」にご参加・ご協力、シンボルロゴのご使用を！



「牛乳でスマイルプロジェクト」ロゴマーク

上の記事にありますように、農水省とJミルクは「牛乳でスマイルプロジェクト」を通じて様々な活動を行つてまいります。これは、酪農乳业関係者だけでなく、国内のあらゆる企業、団体、自治体から個人までが自由に参加し、一体化して消費者の理解促進、牛乳製品の消費拡大、安定供給に取り組むものです。

<https://www.j-milk.jp/news/h40gb40000009qbz.html>

なお、ロゴを使用した際にはプロジェクトへの報告が要りますので、ダウンロードして使用された場合には、全改協宛にその旨メールにてご報告いただけますと幸いです。

左記の参加登録ページにて登録をしてガイドラインを確認してからロゴを使用するようにしてくださいますようお願ひします。

プロジエクトメンバーですが、左記の参加登録ページにて登録をしてガイドラインを確認してからロゴを使用するようにしてくださいますようお願ひします。

https://www.j-milk.jp/news/h40gb40000009qbz.html

なお、ロゴを使用した際にはプロジェクトへの報告が要りますので、ダウンロードして使用された場合には、全改協宛にその旨メールにてご報告いただけますと幸いです。

可能ならば画像データを付けてください。メールアドレスは mail@zenkaikyou.or.jp です。

